



## 佐世保市立花高小学校



=めざす児童像=  
考える子  
やさしい子  
元気な子

所在地 佐世保市花高三丁目4番1号  
校長 山田 和則  
児童数 653名  
学級数 25学級



小森川自然体験学習（3年生）  
～水中生物とのふれあい～



米作り体験 ～稲刈り～（5年生）

### 1 目的


- 児童の発達段階に応じた様々な学習活動を通して、環境の大切さを学ぶと共に、学校が一人一人にとって楽しい学びの場となることで、学校教育目標である「ひらく[元気な子]」の具現化を目指す。
- 活気と潤いのある学校環境を整備するために、学級園等において学年に応じた草花や作物の栽培を推進する。また、地域の方との交流・福祉活動を通して児童の情操を高め、「いのち」を大切にする心を育てることにより学校教育目標である「いのち[やさしい子]」の具現化を目指す。
- 校内研究テーマである「やさしさあふれる社会を創る子どもの育成～一人一人の教育的ニーズに応え、個性の伸長を図る日常・学習活動の充実～」を推進していくために、児童理解を充実させ、子ども一人一人がどのような教育的ニーズをもっているのかを把握する。それに応えるため、算数科・道徳等、特別支援教育の視点からの授業を仕組み、特別活動や生活指導を充実させ、学校教育目標である「やさしい子」の具現化を目指す。
- 近隣の保育園や幼稚園の幼児を招いて、接続カリキュラムに則り、遊びやふれあい活動、学校探検、学習見学を通して、保育園や幼稚園とのふれあいによる交流を深め、保育園や幼稚園からの円滑な移行を目指す。

## 2 実践内容

対象学年	時期	活動場所	活動内容
1年	7月	中庭	<p>【シャボン玉遊びをしよう】</p> <p>保幼小連携事業の第1回目の活動として近隣の保育園や幼稚園生と一緒にシャボン玉を飛ばして遊んだ。園児をお世話することで年長としての意識が芽生え、楽しく活動ができた。また、いろいろな大きさのシャボン玉が上がり、歓声が聞かれた。吹き方を教えたり、道具を貸してあげたりして、微笑ましい姿が多く見られた。</p>
	12月	体育館	<p>【昔遊びをしよう】</p> <p>保幼小連携事業の第2回目の活動として実施した。1年生は事前に親子で昔遊びをしたことで、とても自主的な活動ができた。園児の手を引き、遊び方や約束事などを知らせながら、いろいろな昔遊びを紹介して楽しい交流となった。</p>
	12月	中庭	<p>【チューリップの球根を植えよう】</p> <p>生活科の学習で、一人一鉢ずつチューリップの球根を植える活動を行った。地域ボランティア「花のわ会」の方をゲストティーチャーとして迎え、球根の植え方、世話の仕方を教えていただいた。球根が寒さに耐えることの大切さなど話をしていただき子どもたちも真剣に聞くことができた。人と同様に生き物にも命があることを知り、命の大切さについて学ぶことができた。また、昔ながらの知恵や知識を伝授していただく機会を設定できたことは、「人の温かさ」にも触れることができ有意義な活動になった。</p>
2年	5月	学年園	<p>【ぐんぐんのびろ】</p> <p>生活科で、野菜を育てる学習に取り組んだ。夏野菜ではナス・ピーマン・キュウリを育てた。子ども達は、日々の成長を楽しみにして、水やりや除草などの作業を頑張った。7月にはたくさん実り、楽しく収穫することができた。ぐんぐん成長する野菜の様子に驚きながら、高さを測ったり、触ってみたり、においをかいだりしながら、観察日記に記録した。</p> <p>冬野菜ではブロッコリーと大根を育てた。大根の間引きの作業は初めての体験で、間引きの意味を知り、体感しながら作業をした。間引きがうまくできずに十分に成長しなかった大根もあったが、間引きの意味を身をもって体験し学習することができた。ブロッコリーの苗は、普段食事で目にするものとはまったく違って、驚く子どももいたが、成長し収穫する時期になると食べる部分がどこにできるかを発見し、喜びながら観察日記に記録していた。それぞれの野菜を家庭に持ち帰り、家庭での料理の材料に使われたことを話す子どももたくさんいた。</p>
	7月		
	11月		
3年	9月	小森川	<p>【小森川自然体験学習～水中生物とのふれあい～】</p> <p>1回目の活動はゲストティーチャー清流会のみなさんを迎え、そのご指導のもと、ザリガニや魚など、小森川に住むさまざまな生き物を探して、小森川の自然と触れ合った。2回目の活動は、石の裏などに住む小さな生き物に目を向け、採った生物を調べたりする中で、川の水の様子を知ることができた。地域の方々と体験的な活動と一緒にを行うことで地域の方々の思いを受けとめながら、意欲的に学ぶことができた。また、3回目は、ゲストティーチャーに川の役割や水質を守るためにできることなどを詳しく教えていただき、子ども達は自然環境を守る大切さを感じ、自分たちのふるさとに流れる小森川を大切にしようという思いをもつことができた。</p>



3年	11月 12月	運動場	<p>【お年寄りと交流しよう～花高 GGC の方々とのグランドゴルフ交流～】</p> <p>校区内で活動されている花高グラウンドゴルフクラブの方々をお迎えし、グラウンドゴルフでの交流を楽しんだ。1回目の活動では、打ち方やルールもわからない子ども達だったが、丁寧に教えていただきながら次第に上達し、楽しく活動することができた。2回目の活動では、ルールや球を打つときのポイントも理解し、中にはホールインワンを出して、大喜びする姿も見られた。2回の活動を通して、グランドゴルフの技術はもちろん、お年寄りとの心の交流が深まり、地域に根ざした学校づくりを行うことができた。</p> 
4年	6月 8月 10月 11月	校外 校内 校内	<p>【平和について考えよう『平和の光は花高から』】</p> <p>6月に平和学習で長崎見学を実施した。平和案内人のガイドの方から原爆資料館の展示物や体験談を交えた説明を聞き、学校で学ぶことのできない貴重な体験ができた。平和公園では、全校児童が折った千羽鶴を捧げ、被害に遭われた方々のご冥福を祈った。見学で学んだことや、平和案内人の方々の思いを全校児童に伝えるために、呼びかけの言葉を練り上げ、8月9日の平和集会で全校に向けて平和学習の成果を発信した。</p> <p>【高齢者・障害者疑似体験活動】</p> <p>佐世保市福祉活動プラザの方に指導していただき、体験を通して、自分が考えていた以上に、目が見えないことは大変なことを学んだ。高齢者疑似体験では、ゴーグル等の装具を着け、体の不自由さを体験した。また、高齢者の介助の仕方を教えていただき、体のどの部分を支えればいいのか、どこに立てばいいのかも知ることができた。高齢者の苦労を初めて実感し、「お年寄りに優しくしたい」と感想を述べる子どもが数多くいた。さらに、今年度は、「認知症サポート講習会」を実施した。早岐包括センターの職員が来校され、『認知症』についてO×クイズや劇などで正しい知識を子どもたちに教えてくださった。職員の方から福祉とは『普段の暮らしの幸せ』という言葉聞き、高齢者も障害者も同じ人として、幸せに暮らすためにどのような言葉かけや思いやりの気持ちをもてばいいのかを学ぶことができた。</p>  
5年	5月 11月 2月	校内田 校内	<p>【米作り体験学習】</p> <p>5月から6月にかけて、田起こし・代かきに取り組んだ。鎌やスコップで、2回田起こしを行い、足やトンボを用い、代かきを行った。6月21日（火）に田植えに取り組んだ。ゲストティーチャーに田植えの仕方を教わり、1人当たり3～5株の苗を植えることができた。7月から10月にかけて、稲の花の観察を継続的に行ってきた。また、稲がいもち病にかかり、薬剤の散布を行った。（薬剤はゲストティーチャーにいただいた。）</p> <p>10月25日（火）に稲刈りを行った。稲刈りの方法についてゲストティーチャーより指導を受け、のこ鎌を利用し1株ずつ刈り取った。</p> <p>11月2日（水）に脱穀に取り組んだ。牛乳パックを各自用意し、脱穀をした。2月の総合学習発表会では、米について調べたことを発表し合い、また家庭科のご飯とみそ汁作りで収穫したお米をなべで炊いて食べた。食べ物の大切さについて一層学習を深めることができた。</p> <p>【保育園児・幼稚園児と交流会をしよう】</p> <p>保幼小連携事業の第3回目の活動として実施した。近隣の保育園児や幼稚園児を学校へ招待し、校内を巡ったり、折り紙遊びをしたりしながら一緒に遊んだ。校内のことや折り紙の折り方などを優しく教え、接する場面が多く見られた。</p>  

6年	2月 ～ 3月	校内	<p>【感謝の気持ちを伝えよう】</p> <p>登下校を見守ってくださった見守り隊の方々や、花のお世話やアドバイスをいただいた花のわ会の方々、放課後子ども教室や読みきかせの方々など多くの地域ボランティアの皆さんにお世話になってきた。その感謝の気持ちを伝えるために、6年生が代表して手作り手袋をプレゼントしている。フェルトで花高小学校の校章を作りそれを手袋に縫い合わせ、メッセージカードも添えた。3月の最後の集団下校の前に「感謝の会」を行い、その時に6年生が手渡した。子ども達は、何気ない普段の生活が多く地域の方々に支えられていることに気付くと共に、感謝の気持ちをもつことができた。</p> 
全学年	年間	校内	<p>【学力検査〈国語・算数〉・下敷きの活用・校内研究との関連】</p> <p>学力の定着を図るための資料として、全学年において国語・算数の学力診断テストを実施した。(2～6年生は4、5月、1年生は1月に実施) その結果を、校内研究や年度末まとめの資料として活用した。また、家庭学習の手引きを印刷した下敷きを使用することによって、常に家庭学習を意識させることにより学習習慣の定着を図ることができた。さらに下敷き裏面の学習の心構えや発表の仕方を活用することで、授業に望む心構えや、相手を意識した話し方や聞き方ができるようになってきている。</p> <p>また、仮説を踏まえた研究項目を以下のように挙げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童理解から支援・指導、引継ぎに至るまでのフローチャートの作成</li> <li>② 要配慮児童への支援・指導の視点を明確にした学習指導案の作成と授業の実践</li> <li>③ 秩序ある生活や合理的配慮を意図した環境整備と交流及び共同学習・活動の推進</li> <li>④ 児童の自主的・主体的な実践を大切にされた諸活動の工夫と導入</li> <li>⑤ 内外における委員会・会議の開催、児童理解支援システムを中心とする記録、引継ぎ等の確実な実施と充実</li> <li>⑥ 自己肯定感、所属感、有用感等の児童の内面を中心とする児童の変容の把握、考察・分析</li> </ol> <p>これらの項目との関連を図りながら、より良い特色のある学校づくりを推進していきたい。</p> 